

平川市新本庁舎建設設計業者選定プロポーザルに係る

選定結果及び審査講評

平成29年8月9日

平川市新本庁舎建設設計業者選定委員会

平川市新本庁舎建設設計業者選定プロポーザルの審査において、実施要領に基づき各提案者の技術提案書等を厳正かつ公平に審査した結果、最優秀者及び優秀者を選定したので、次のとおり講評する。

平成29年8月9日

平川市新本庁舎建設設計業者選定委員会

委員長 北原 啓司

副委員長 滝田 貢

委員 五十嵐 太郎

委員 松本 真一

委員 浅利 勉

委員 古川 洋文

委員 齋藤 久世志

1 審査の経過

平川市新本庁舎建設に係る基本設計及び実施設計業務の受注者を選定するため、平成29年4月28日に平川市新本庁舎建設設計業者選定委員会（以下「委員会」という。）が設置され、プロポーザル実施要領、特定課題（下表参照）及び業務委託特記仕様書を審議・決定し、設計業者を日本全国から広く募集することとした。

5月11日、プロポーザルを公告し、6月2日までに12者から応募があり、資格等を審査した結果、全者へ参加承認を6月9日に通知したものである。

技術提案書等は7月7日までに全者から提出があり、7月19日、第2回委員会を開催し、業務の実施方針及び技術提案書を実施要領に基づき評価したところ、上位5者を第2次審査対象と決定したものである。

8月5日、市民等を対象として公開によるプレゼンテーション及びヒアリングを平川市生涯学習センターで開催し、各提案者から業務の実施方針及び技術提案書の具体的な説明並びに質疑応答により提案内容を確認した上で、終了後ただちに開催した審査会において委員の合議により、最優秀者及び優秀者を決定した。なお、公開プレゼンテーション及びヒアリングへは市民等53名が参加し、会場へは審査対象5者の提案書を提示した。

特 定 課 題 内 容	
A	安心・安全と市民サービスの拠点として機能的な庁舎建築計画
	①日頃から市民が気軽に立ち寄れるような空間のあり方 ・市民をやさしく迎え入れ、快適に過ごしながらサービスを受けることができる 窓空間の工夫 ・機能的な執務環境と効率的な市民サービス提供を実現させるための考え方 ②防災拠点として必要な機能整備と構造に関する考え

	市民が親しみ、交流し、賑わい創出につながる敷地利用計画
B	本庁舎解体後の敷地利用を見据えた総合的な敷地利用計画 <ul style="list-style-type: none"> 平賀駅前通りから本庁舎へアクセスする際の敷地内ユニバーサルデザインを達成するための本庁舎配置計画及び敷地利用（造成）計画 人が交流し行き交うことから生まれる賑わいを創出し、将来的な地域経済の活性化と観光資源の活用を図るための土地利用計画
	環境に配慮した建築及び設備計画
C	①約30年毎に到来する大規模改修時のコスト削減、超長期にわたるライフサイクルコスト低減への工夫 ②特別豪雪地帯における雪及び凍害対策（本庁舎及び附属施設の雪庇、凍害、屋上への積雪等並びに駐車場や歩道における除雪、堆雪等への有効的な方策） ③省エネルギー、再生可能エネルギーの導入を図るため、基本計画で例示したもののほか地域に賦存するエネルギー活用に関する設備計画、建築構造上の工夫

2 選定結果の概要

(1) 第1次審査結果

・評価項目

実施体制及び業務実施上の理解度（配点25点）並びに特定課題に対する技術提案におけるそれぞれの理解度、実現性及び創造性（配点75点）を評価項目として審査を行い、委員1人100点、委員7人の合計700点満点により評価した。

・選定結果

500点付近に上位5者が拮抗し、第5位と第6位は差が大きかったことから上位5者を第1次審査通過とした。

整理番号	評価点数合計	整理番号	評価点数合計
1	412	7	492
2	495	8	394
3	383	9	509
4	431	10	393
5	482	11	372
6	437	12	507

(2) 第2次審査結果

最優秀者 整理番号2 平川市新本庁舎建設設計NASC A・八洲・構設計共同企業体
優秀者 整理番号9 平川市新本庁舎建設設計山下・工藤設計共同企業体

(3) 最優秀者の選定理由

市中心部に位置する約23,000平方メートルの広大な敷地でありながら、不整形かつ敷地中央にある約2.5メートルの高低差を意識することなく、窓口へアプローチすることが本プロポーザルにおける課題の一つであった。これに対し、本提案では、敷地の東西を緩やかにつなぎ、敷地利用の一体化を図った点で高い評価を得ることとな

った。

本提案の最大の特徴は本庁舎を三角形の形状としたことであるが、そのユニークな意匠についても、まちの新たな顔となることは委員会で一致した意見であった。また、ロングスパンの鉄骨フレームを採用することで免震装置を減らして経費の縮減を図っており、不均等な三角形であるが故の高度な解析についても対応可能な力量も期待されるものである。

環境面においては、建築環境総合性能評価システム（CASBEE（キャスビー））やネット・エネルギー・ゼロ・ビル（ZEB（ゼブ））等の導入については費用対効果をにらみつつ検討しながらも、現状では外壁等の性能を上げることで45%の省エネを考えていることも評価されたものである。

ねふた広場の活用については、提案では芝生が大半を占めており、広場内のねふた運行を考えた際に芝生が障害となるものであるが、この点についてはデザインオフィスを市内に開設し、利用者とのワークショップを通じて広場の使い方により賑わいを生むよう検討を行うとした点も評価されたものである。

最優秀者にあっては、平川市の顔として、また、駅前通りの賑わいを生むことができる庁舎として、市と協議し、よりよい設計としてまとめられることを期待したい。

一方、優秀者は、プラン的には無理がなく、実現性の高い提案として評価され、特に職員の利用面からは、使いやすい庁舎になるものと期待されるものであった。